

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ (建築学コース・専門科目)

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号									
					達成目標 (ディプロマポリシー) の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す									
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	
T400001	建設学序論	建築学、土木工学(建設工学)の各専門分野について、専門課程で勉強する内容の導入授業として、各教員からわかりやすく紹介する。	(A)科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける。 教育目標はURL: http://archi.ishii.utsunomiya-u.ac.jp を参照のこと	科学技術に対する共通のリテラシーを身につける。	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
T400216	建築構造力学 I	建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎を学びます。静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などを学びます。	(D) 建築技術者としての倫理観を養う。 (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	静定構造物(片持ち梁、単純梁、静定ラーメン、3ヒンジ架構、静定トラス)における力のつり合いが理解できる。 各部材に生じる応力(曲げモーメント、軸方向力、せん断力)を算定して応力図および変形の概略が描ける。 構造材料の基本的な力学的性質である応力度と歪度の関係を理解し、応用できる。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
T400313	建築構造力学 II	構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力度と変形の関係について理解を深める。断面図形の性質、応力度の算定、変形の算定、部材の弾塑性挙動などを学びます。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	部材断面の諸性質を理解し、関係諸量を算定できる。 曲げモーメントと応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。 応力度と歪度の関係を基にして、部材の曲げ変形およびせん断変形を求めることができる。 部材の弾性挙動と塑性挙動の考え方を理解する。	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
T400410	建築構造力学演習 I	建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎を学びます。静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などを学びます。	(D) 建築技術者としての倫理観を養う。 (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	静定構造物(片持ち梁、単純梁、静定ラーメン、3ヒンジ架構、静定トラス)における力のつり合いが理解できる。 各部材に生じる応力(曲げモーメント、軸方向力、せん断力)を算定して応力図および変形の概略が描ける。 構造材料の基本的な力学的性質である応力度と歪度の関係を理解し、応用できる。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
T400518	建築構造力学演習 II	構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力度と変形の関係について理解を深める。断面図形の性質、応力度の算定、変形の算定、部材の弾塑性挙動などを学びます。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	部材断面の諸性質を理解し、関係諸量を算定できる。 曲げモーメントと応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。 応力度と歪度の関係を基にして、部材の曲げ変形およびせん断変形を求めることができる。 部材の弾性挙動と塑性挙動の考え方を理解する。	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
T400520	建物の動的応答	地震による建物の揺れの様子と大きさは、どのような要因により決まるかについて、実験と簡単な解析モデルによるシミュレーションを通して、理解する。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	簡単な理論式で、地震時の建物の揺れを表現できる。	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
T400615	構法設計	建築の構成方法、材料および構成部品により構成される建物の実体である様々な建築構法を、躯体構法と各部構法に分け、その仕組みや特徴に関して講述する。	(D) 建築技術者としての倫理観を養う (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	今後建築を勉強していくのに必要である建築の基礎知識や専門用語などを理解させる。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ (建築学コース・専門科目)

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号								
					達成目標 (ディプロマポリシー) の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す								
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)
T400712	建築構法	建築物を構成する4要素；一般構造部（屋根、壁、床、天井、開口部、階段など）、主体構造部（一般構造部を安全に支持し構成する部分）、基礎構造部、設備のうち、主体構造部と基礎構造部について解説する。主体構造部としては、木質構造を中心にし、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造についても概要を説明する。この他に、荷重・外力についても解説する。	(D) 建築技術者としての倫理観を養う。 (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	構造種別ごとに、主として構造面から解説した必要最低限の事例（特徴、構造計画、構造設計、各部の収まりなど）を総合して、建築の設計に結びつける能力を養う。特に、木質構造については住宅を例にとり、具体的な構造計画及び部材設計について解説を行い、受講生みずからが住宅の構造設計及び耐震性の評価などを出来るようにする。	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.2	0.0	0.0
T400810	鉄筋コンクリート構造	許容応力度設計法による梁、柱などの部材設計の考え方と設計。設計した部材について、終局強度と変形性能を確認する。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	建築の設計においては、建築構造物の構造方式、規模に応じて、柱・梁などの部材寸法を適切に決定する必要がある。そのためには、力学的な裏付けを持った知識を身につける必要がある。その成果として、例えば、2層1スパン程度の簡単な構造物の設計が出来るようにする。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0
T400917	鉄骨構造	建築構造物の主要な構造形式である鉄骨構造による構造体を設計するための基本的な項目について習得し、鉄骨構造骨組の構造設計の内容について学びます。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	構造形式として鉄骨構造の特徴を理解する。引張力、圧縮力、曲げモーメントを受ける部材の設計ができる。接合部のディテールを理解して、接合部の設計ができる。鉄骨造建築物の構造設計の流れを理解する。	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T401018	建築計画学 I	設計する建物に求められる機能・性能、運営組織と管理者・利用者の関係づけなどについて検討する建築計画の過程における考え方や方法について解説する	(D) 建築技術者としての倫理観を養う (F) 人間および社会の諸要求・条件を理解し建築空間・制度を構築する能力を身に付ける	建築設計の基礎となる建築計画の考え方と基本的な方法について、いくつかの建物種類を例に習得する	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0
T401115	建築計画学 II	建築計画の対象が個々の人間生活から人間活動の集合である地域コミュニティや都市に移っていく各レベルにおける建築計画の考え方や方法を歴史的な変遷を含め、具体的に解説する	(D) 建築技術者としての倫理観を養う (F) 人間および社会の諸要求・条件を理解し建築空間・制度を構築する能力を身に付ける	集合住宅の住戸計画を始めとして、住棟、住宅団地、街区、都市など各スケールでの建築・都市計画の基本的な考え方と方法を習得する	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0
T401212	環境工学 I	建築の室内外の環境に関する基礎講義	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	1. 室内環境を形成する物理的要素と外界からの影響を定量的に求める計算方法とその技術を理解する。 2. 室内設定条件および外界条件と建物の冷暖房熱負荷の関係を理解し、その計算方法を学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T401310	設備工学 I	建築と設備の環境調整性能について、電気設備・給排水設備・空調調和設備の使命、仕組み、主要な機器構成など設備全般の概要について講義する。	(D) 建築技術者としての倫理観を養う (F) 人間および社会の諸要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	建築設備全般に関する基本知識を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
T401417	建築環境実験	熱・光・音・空気などの自然の要素が建築内外においてどのような現象を示すかを定量的に測定する方法や分析・評価する方法を学ぶ。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。 教育目標はURL: http://archi.ishii.utsunomiya-u.ac.jp を参照のこと	自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける。	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ (建築学コース・専門科目)

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号									
					達成目標 (ディプロマポリシー) の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す									
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	
T401514	建築材料 I	建築技術者としての倫理観を養う。自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に生かす能力を身につける。資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける。	(D) 建築技術者としての倫理観を養う。 (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に生かす能力を身につける。 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける。	建築材料の中でコンクリートは、建築の研究者、技術者が直接その製造にかかわり、品質・性能・機能を制御することができる数少ない材料である。この授業では、建築物を構成する主要な構造材料であるコンクリートおよび鋼材について講義する。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T401611	建築材料実験	建築物を構成する種々の材料のうち、主要な構造材料であるコンクリート、鋼材、木材などの品質と諸性質について実験を行い、材料の特性や建築材料としての性能等を把握する。	(D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける	日本工業規格 (JIS) が規定する各種の品質評価方法を学習し、厳しい品質管理の状況を経て世の中に流通している建築材料の工学的意味を考える力を養う。	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T401719	建築生産	建築技術者の考え方と技術者として知っているべき種々の知見・技術について解説し、それらが実際の建設工事でどのように行われているかをビデオ等で見せる。	(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける	建物を作る方法を詳述し、建築工事についての学生の理解を深め、設計、構造、土質、材料等各分野の学習の補完をする。また、1級建築士試験 (施工分野) 準備の一助とする。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
T401816	建設図学 I	図学は幾何学的な形態を平面に描写する方法の科学であり、空間図形の理解を容易にし空間の把握力を養う。	(B) 多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につける。	立体を平面上へ投影する図法を修得させ、立体と空間の理解を深める。	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
T401914	建築設計製図 I	定められた期限内に与えられた紙面に要求された内容を的確に表現する建築設計製図の作業を行う	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身につける。 (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につける。	建築設計の技術的基礎となる製図技法と表現方法ならびにスケール感覚を習得する	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T402014	建築設計製図 II	建設中の鉄筋コンクリート (RC) 造、鉄骨 (S) 造、または、鉄骨鉄筋コンクリート (SRC) 造の建物を例にとりあげ、その一般図、詳細図、構造図、および、設備図をトレースすることにより、建物を実際に造る際に必要となる主な図面の役割を伝える。同時に、製図技法、図面の表現方法を習得してもらおう。また、構造的な特徴、および、施工の実態をよりよく理解してもらうために、課題に採り上げた建物の建設現場見学を行う	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける。 (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける。	建築に関する図面のうち、主要な一般図、構造図、設備図について、それらの図面の果たす役割を伝え、実際に建設中の建物について、それらの図面を描いて理解する。	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
T402111	建築設計製図 III	定められた期限内に与えられた紙面に要求された内容を的確に表現する建築設計製図の作業を行う	(D) 建築技術者としての倫理観を養う (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築に関わるデザイン能力を身につける	居住施設に関する設計の基礎的な製図技法と表現方法を具体的な課題を通して習得する	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.6	0.0	0.0
T402219	建築設計製図 IV	定められた期限内に与えられた紙面に要求された内容を的確に表現する建築設計製図の作業を行う	(D) 建築技術者としての倫理観を養う (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築に関わるデザイン能力を身につける	業務施設および公共施設の基礎的な製図技法と、設計課題を通して設計技法を習得する	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.6	0.0	0.0

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ (建築学コース・専門科目)

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号								
					達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す								
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)
T402316	建築設計製図Ⅴ	定められた期限内に与えられた紙面に要求された内容を的確に表現する建築設計製図の作業を行う	(D)建築技術者としての倫理観を養う (H)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築に関わるデザイン能力を身につける	設計課題の建築計画を通して、創造性を高めるとともに建築への基本的な取組方を習得する 具体的には、図面表現を通して他に伝達する手法の習得と、創造性を豊かにするための課題のもとに表現力を高める技法を習得する	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.6	0.0
T440013	建築構造力学Ⅲ	不静定構造物を対象として、実構造物の構造設計に役立つ「応力と変形の解析手法」と「構造設計の概要」を学びます。	(E)自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	たわみ角法、固定モーメント法を用いて応力解析および変形の検討ができる。 実構造物を対象とした構造設計の概要を理解する。	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T440030	土質基礎工学	建物を設計する上で必要な基本的な地盤・基礎に関する知識や考え方	(E)自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	基礎構造は、建物からの応力を地盤に伝達する重要な部分であり、建物の安全性に重要な役割を担っている。本講義では、建物を設計する上で必要な基本的な地盤・基礎に関する知識や考え方の習得を目標とする。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0
T440048	構造設計論	各種の基礎技術が如何に有効に設計行為の中で生かされてゆかかを具体的に示す。	(G)資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける (I)工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く。	建築設計は美とサイエンス・テクノロジーの結晶であり、構造設計はその重要な要素であることを認識せしめる。又、各種の基礎技術が如何に有効に設計行為の中で生かされてゆかか具体的に示し、基礎技術習得のモチベーションとするとともに学生個人の持つ創造的資質を刺激・発展させる。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
T440056	建築計画学Ⅲ	建築設計の基礎となる各種公共建築物(学校教育施設、博物館・美術館、コミュニティ施設、図書館、劇場等)に関する専門的、技術的な事項について解説する。	(F)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	公共建築物(学校教育施設、博物館・美術館、コミュニティ施設、図書館、劇場等)の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養う	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2	0.0
T440064	建築計画学Ⅳ	建築設計の基礎となる各種公共建築物(主に保健医療・福祉施設)に関する専門的、技術的な事項について解説する	(F)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	公共建築物(主に保健医療・福祉施設)の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養う	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2	0.0
T440083	都市計画	都市の歴史から、現況の法制度、都市問題等の、都市計画に関わる基本的な用語、概念、計画技法、整備手法を解説する	(F)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	・都市計画に関する基本的な考え方、概念、用語を習得する。 ・法制度、開発・保全の側面から、都市の基本的な構造を理解する。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0
T440086	地区計画	都市・地域の部分を対象とした種々の地区の考え方、基本的な用語と概念、計画技法、整備手法等を解説する	(F)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	1.地区計画に関する基本的な考え方、概念・用語を習得する 2.地区の保全と整備に関する都市計画の手法と事業の進め方について習得する	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0
T440099	建築法規	人間生活に基礎を置いて建築を考えるという視点から、建築規制の歴史から学び、建築関連法規の基本である建築基準法の立法の趣旨、法の特徴、目的を理解し基本的な考察ができるよう解説する	(D)建築技術者としての倫理観を養う (F)人間および社会の諸要求・条件を理解し建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	建築設計の基礎となる建築法規の考え方と基本的な内容について、建物種類を例にあげながら習得する	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.2	0.0
T440102	建設図学Ⅱ	図学は幾何学的な形態を平面に描写する方法の科学であり、空間図形の理解を容易にし空間の把握力を養う。建設図学Ⅰからの継続である。	(B)多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける。	立体を平面上へ投影する図法を修得させ、立体と空間の理解を深める。授業後半では、建築物や土木構造物の立体表現に用いる図法(陰影、軸測図象、透視図等)を修得する。	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ (建築学コース・専門科目)

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号								
					達成目標 (ディプロマポリシー) の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す								
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)
T440110	建築デザイン	建築の空間構成に関して、建築と家具、建築と都市といった空間を連続的に捉える視野を養い、建築デザインについての構想力と表現力を修得する。	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	建築の空間構成に関するリテラシーを獲得する。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.2
T440129	歴史意匠Ⅰ	古代からルネッサンス、バロック期までの「西洋建築」の形成、及び発展の過程を理解し、歴史的背景を含む各時代の様式、意匠の特徴を解説する	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	古代西アジアを含めた西洋建築の様式、造形、構造、技術、意匠等の発展の様子と特徴を修得する	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
T440137	歴史意匠Ⅱ	近代建築家作品の特徴を通じて、近代建築の思想の流れを分析し、解説する	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	19世紀近代建築思潮から現・近代建築まで、建築作品及び建築思潮を通して設計概念と建築思想の変遷過程を理解する	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
T440145	歴史意匠Ⅲ	日本建築を対象に、過去の歴史においてどのような建物が建てられ、どのような意味で歴史に残っているのか、またその意匠はどのような歴史的背景と技術的変遷を経て建てられたものかについて学ぶ	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかを理解する	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
T440153	環境工学Ⅱ	建築の室内外の環境に関する講義。主として気流、音、空気質、光に関する講義	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に生かす能力を身につける。	1. 建築空間に関する室内外の環境を構成する物理的要素を理解し、優れた室内環境を創造するための技術を学ぶ。 2. 建物が外部環境に及ぼす影響と環境負荷削減方法について学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T440161	設備工学Ⅱ	空気調和設備について、冷暖房の原理、自然エネルギー利用、排熱回収、ロス回避などのエネルギー有効利用の考え方を説明する。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける。	個別式空調方式と中央式空調方式熱源システムの原理とエネルギー有効利用法を理解する。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
T440170	設備工学Ⅲ	室内環境を良好に保つための空調方式、空調ポンプや空調装置設計法、環境建築設計のための各種手法と設計事例を講義する。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける。	空調機の原理と機能、室内環境に配慮する省エネルギー技術の特徴を理解する。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
T440188	設備設計論	実務者からの視点で建築設備の現状と設計への対処例を紹介することで建築分野における建築設備設計の役割について学ぶ	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける。 (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く。 教育目標はURL: http://archi.ishii.utsunomiya-u.ac.jp を参照のこと	人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける。 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5
T440196	建築材料Ⅱ	建築技術者としての倫理観を養う。自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に生かす能力を身につける。資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける。	(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける。	建築材料の中でコンクリートは、建築の研究者、技術者が直接その製造にかかわり、品質・性能・機能を制御することができる数少ない材料である。この授業では、建築物を構成する主要な構造材料であるコンクリートおよび鋼材について講義する。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ (建築学コース・専門科目)

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号									
					達成目標 (ディプロマポリシー) の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す									
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	
T440200	測量学	建設の基礎となる測量の技術について解説する	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける	建設の基礎となる測量の考え方と方法を習得する	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T440218	建築見学実習	古建築や伝統的町並み、あるいは最新の技術を駆使した建築の見学を通して、今後の建築のあり方を考察することに役立てる建築文化や建築技術について学ぶ	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	
T440227	建築情報デザイン	建築分野において必要とされるコンピューターの活用する方法について各種のケーススタディを通じて学ぶ。	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける。 教育目標はURL: http://archi.ishii.utsunomiya-u.ac.jp を参照のこと	科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける。	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T440350	学外実習 I	建築実務に関する学外実習を行いレポートにまとめる	(B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身につける	学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会とする	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T440351	学外実習 II	建築実務に関する学外実習を行いレポートにまとめる	(B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身につける	学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会とする	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T499018	建築学卒業研究	卒業研究は、配属された研究室において、指導教員による指導の下、選択したテーマにもとづき、実験、実測、現地調査などを通じて得た資料・データを整理、分析して、論文としてとりまとめ発表審査を受ける一連の作業である	(F) 人間および社会の諸要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身につける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し建築として表現する能力を身につける (I) 工学と芸術のバランスの取れた感性を磨く	主に専門科目において習得した知識や技術を集大成すべく、それらを活用して各自が取り組む研究テーマについて課題解決を図る能力を身につける	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.4	
T499026	建築学卒業設計	卒業設計は、学部授業で修得した建築に関する知識・技術にもとづき、自ら設計テーマや敷地、建物用途などを自由に設定し、与えられた枚数の建築図面として表現して発表審査を受ける一連の作業である	(F) 人間および社会の諸要求・条件を理解し、建築空間・制度を構築する能力を身につける (G) 資源調達・運用・実現プロセスを総合し建築として表現する能力を身につける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築に関わるデザイン能力を身につける (I) 工学と芸術のバランスの取れた感性を磨く	1. 歴史文化を継承し、地域社会に貢献する建築の意識を持つ 2. 都市や地域が育んできた歴史や空間の中で建築設計を行う能力を磨く 3. 施設建築の建築条件を理解し、設計を行う能力を身につける 4. 建築学に関する包括的な専門知識と構造、計画、環境設備、材料・構法などの専門知識の活用をはかる	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.3	0.3	